

Viscovery® SOMine 8.0 – What's New?

- 名義値表現で取得された属性値がリストされ、カウントされるため、早期の正確さチェックが可能になった。
- ヒストグラムの調整ステップで、発生する値のリストを使用して名義属性から値を削除できるようになった。
- 属性の重要度が、ファイル（たとえば前処理プロトコル）からインポートできる。
- プレゼンの目的で SOM のその場で名義値の名前を変更できるようになった。
- 属性リストが元の順序でストアできるようになった。
- 属性の名前と説明の編集が、クラスタの特徴ウィンドウから開始できるようになった。統計およびデータ・レコード・ウィンドウでの属性の順序が、整列で追跡を保持するようになった。
- 散布図の軸上のラベルが、より小刻みになって、より適切（丸められた）数値に配置されるようになった。
- マップ上のサムネイル画像のサイズをカスタマイズできるようになった。
- 新しいセグメンテーションの名前に、クラスタ数が記載されるようになった。
- セグメンテーション・ピクチャを並べ替えることができるようになった。
- 信頼度に変更されると、その信頼度設定を使用する回帰結果がすぐに更新される。

モジュールとライセンスング

- ライセンス可能ないくつかのモジュールの名前が変更された: Visual Clusters から **Visual Explorer** に、そして Explore and Classify から **Cluster and Classify** に。
- 基本モジュール **Visual Explorer** が無償ダウンロードで利用可能になった。
- 現在のライセンスでカバーされていない機能に関連するユーザー インタフェース要素は無効ではあるが表示はされる。
- ライセンス・キーの入力に管理者権限が不要になった。
- 同じコンピュータを（異なるユーザー・アカウントで）使用する複数のユーザーは、各ユーザーが独自のライセンスを持っている場合、**Viscovery SOMine** を使用できる。（または、フローティング・ネットワーク・ライセンスを使用することもできる。
- 起動時にライセンスの有効性がチェックされる。インターネット接続が必要。検証が 30 日間失敗した場合、ライセンスは無効になるが、検証が成功すると再び有効になる。
- Viscovery License Server は毎日ライセンスの有効性をチェックする。10日間、インターネットに接続しないと無効になる。

互換性の注意点

- バージョン 7.2 以前で作成された **Viscovery SOMine** ファイルはインポートできるが、バージョン 8 で作成されたファイルは以前のバージョンではインポートできない。
 - 以前のバージョンで最後に保存された SOM ファイルを開くのに時間がかかる可能性がある。読み込みを速くするには、そのようなファイルを一旦バージョン 8.0 で保存することを推奨する。
 - SOM 単連結クラスタ法が廃止された。Connectivity クラスタリングで多連結 K を 1 にすると同等なクラスタリングを実現できる。
 - 分類のエクスポート・ステップで、クラスタの統計量がエクスポートされなくなった。この情報を各データ レコードに関連付けたいユーザーは、エクスポートされたクラスタ名を使用して、SOM からそれぞれの情報を抽出する必要がある。
-